

Executive Summary

「知能競争」は終焉した。本資料は、AI競争の主戦場が「エンドツーエンドの物理実装とシステム競争」へ移行した真実を解き明かす。

2026年 AI産業のアーキテクチャ再編 と日本の生存戦略

WAIC 2026が示す「物理世界への実装」と分断されるAI地政学

発行日: 2026年7月19日

対象: Executive Board & Strategic Planning

分類: Strategic Intelligence Briefing

国家戦略としてのAI： WAIC 2026の圧倒的スケール

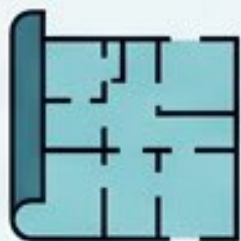
中国は人工知能を単なる技術的キャッチアップから、グローバル規範の主導権を握るための国家戦略の中核機軸へ格上げした。習近平国家主席の初参加がその本気度を証明している。



1

100,000m²

展示面積。上海
全域を巻き込んだ
大規模分散開催。



2

1,100+社

出展企業数。ロボ
ティクス企業200社、
AI計算インフラ企業
200社が集結。



3

300+点

世界初公開された
新製品。グローバル
な技術開発の異常
なスピード。



4

最高指導者

習近平国家主席によ
る開幕式基調講演
と、国家戦略として
の明確な意思表示。



パラダイムシフトの三層構造：ソフトウェア単体から物理システムへ

従来の「パラメータ数に基づく知能競争」は終わった。AI競争の新たな主戦場は、計算インフラから物理空間のロボットまでを实を貫く、三層のシステム間連携へと完全に移行している。

Physical Embodiment



Humanoid Robots
Smart Devices

Layer 3: Physical Embodiment

具象AI（ヒューマノイド・スマートデバイス）。AIが物理世界で知覚と行動を実行。

Agentic OS



Agentic OS
A2A Networks

Layer 2: Agentic OS

自律型AIエージェント。A2A（Agent-to-Agent）ネットワークによる自律的なタスク遂行。

Infrastructure



Token Factories
SuperPoDs

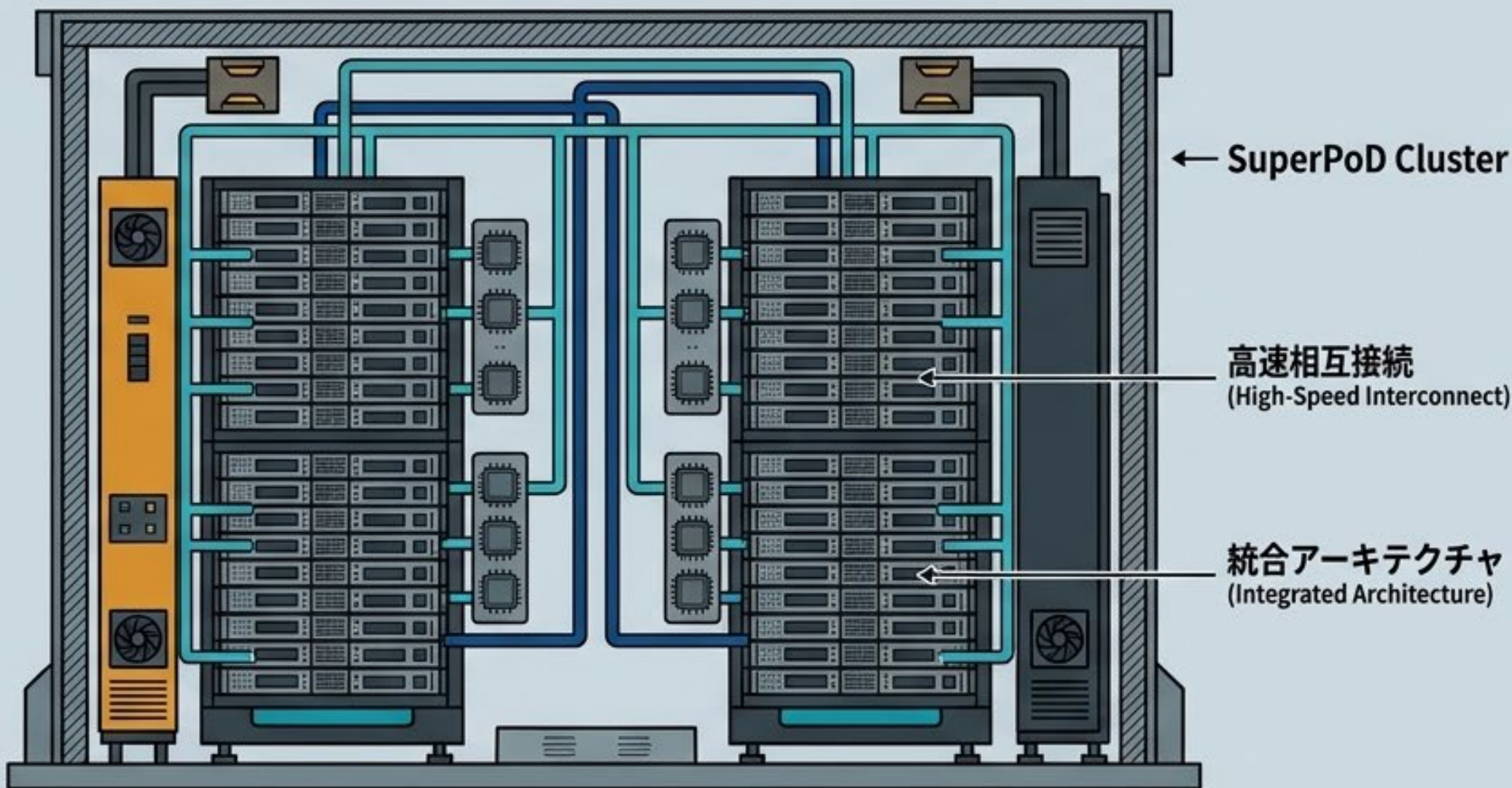
Layer 1: Infrastructure

トークンファクトリー。SuperPoD等によるシステム全体のスループット最大化。

第一層：単一チップ競争から「トークンファクトリー」への進化

Core Message Card

中国のAIトークン呼び出し回数は2025年末に100兆回へ爆発。
米国の先端半導体規制を迂回するため、中国企業は「システム全体の統合アーキテクチャ」で単体性能のハンデを凌駕する戦略へシフトした。



Technical Showcase Panel

1 Ascend 950 SuperPoD (Huawei)

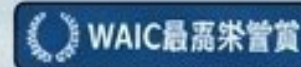


1,024基のAIアクセラレータを高速相互接続。
3マイクロ秒のRTT遅延とFP4で2 EFLOPSの演算能力。
液冷代替の「VCE相変化冷却技術」を採用。

2

Technical Showcase Panel

曙光8000 / 登峰 (Sugon)

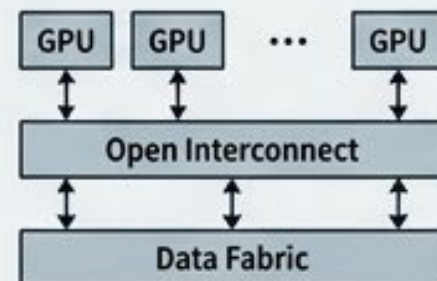


完全国産の10万カード級AIスーパークラスター。
高精度科学計算からAI推論までを単一処理する「超智融合」アーキテクチャ。

3

Technical Showcase Panel

OEX Supernode (ZTE)



オープンアーキテクチャでGPU相互接続のボトルネックを打破。

第二層：ソフトウェアの自律化と「Agentic OS」の台頭

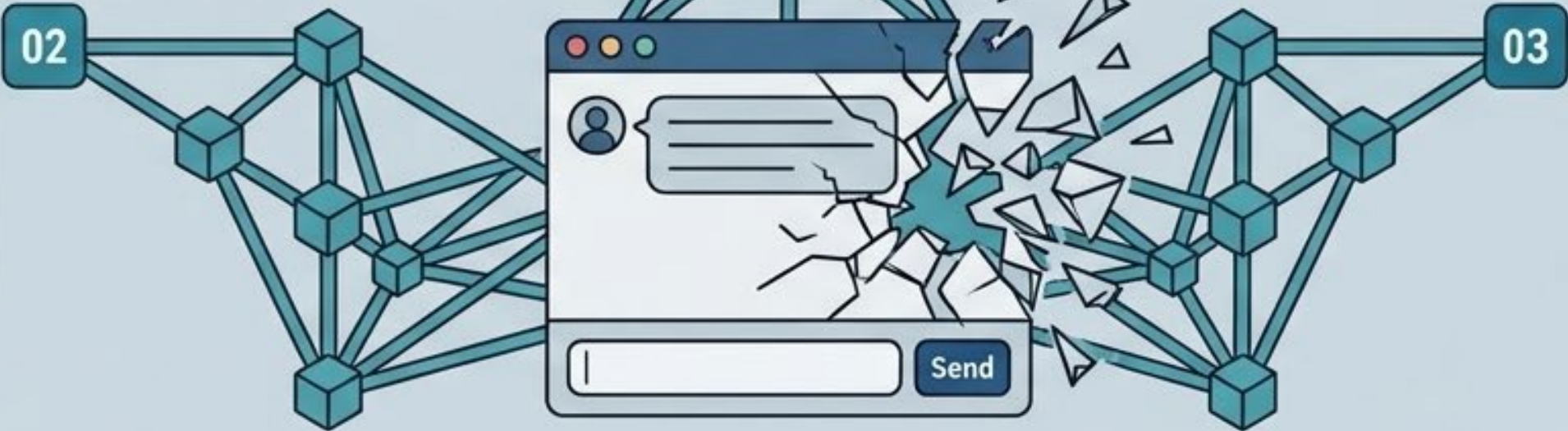
Core Message Card

「チャットボット」の時代は終わった。
AIは世界を理解する段階から、自律的に計画・推論・
ツール実行を行う「変革する段階」へ突入した。
プログラミング能力が新たな知能の基準である。

02

人機共生





01

Agentic OS



03

A2Aネットワーク



01 Agentic OS

企業データベースやIoTとの直接接続。
モデルとデータを繋ぐ専用OSが競争の主戦場。

02 人機共生

スマホや自動車は「操作する端末」から
「エージェントの物理的な身体」へ変化。

03 A2Aネットワーク

エージェント同士が自律的に連携し、アイデンティティ
を持ち、自動で受発注や取引を行う並行経済インフラ。

実装事例

Baidu Dazi
(汎用エージェント)

STEPX Neo
(エージェントネイティブスマホ)

iFlytek AI Glasses
(重量40gの視覚・聴覚アシスタント)

第三層：「Physical Scaling Law」による具象AIの急加速

AIの進化則は物理世界へ適用された。ロボティクスはバク宙などの「見世物」から、工場や店舗での「実用的な労働」へと焦点を完全に移している。

AgiBot 遠征 A3 Ultra

360度視覚+LiDAR融合。
WAIC会場にて60台以上のロボットを
無人稼働させるRaaS大規模ストレ
ステストを完遂。



Ant Group ロボット智慧薬局

単一の具象基盤モデル「LingBot-VLA」が
異機種ロボット3台を協調制御。
受注から梱包までを**90秒で完遂**。



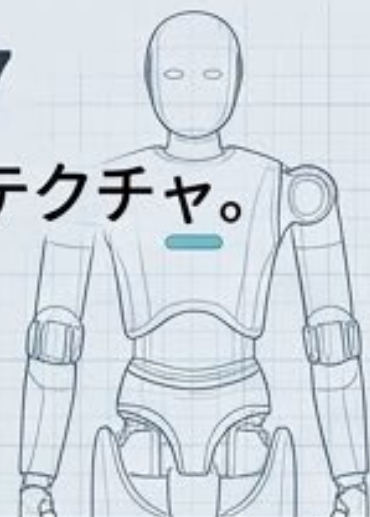
PsiBot × YOFC

サブミリ単位の精度が要求される
光モジュール製造に具象AIを導入し、
製造ロスを**10%削減**。



Pudu Robotics PUDU D7

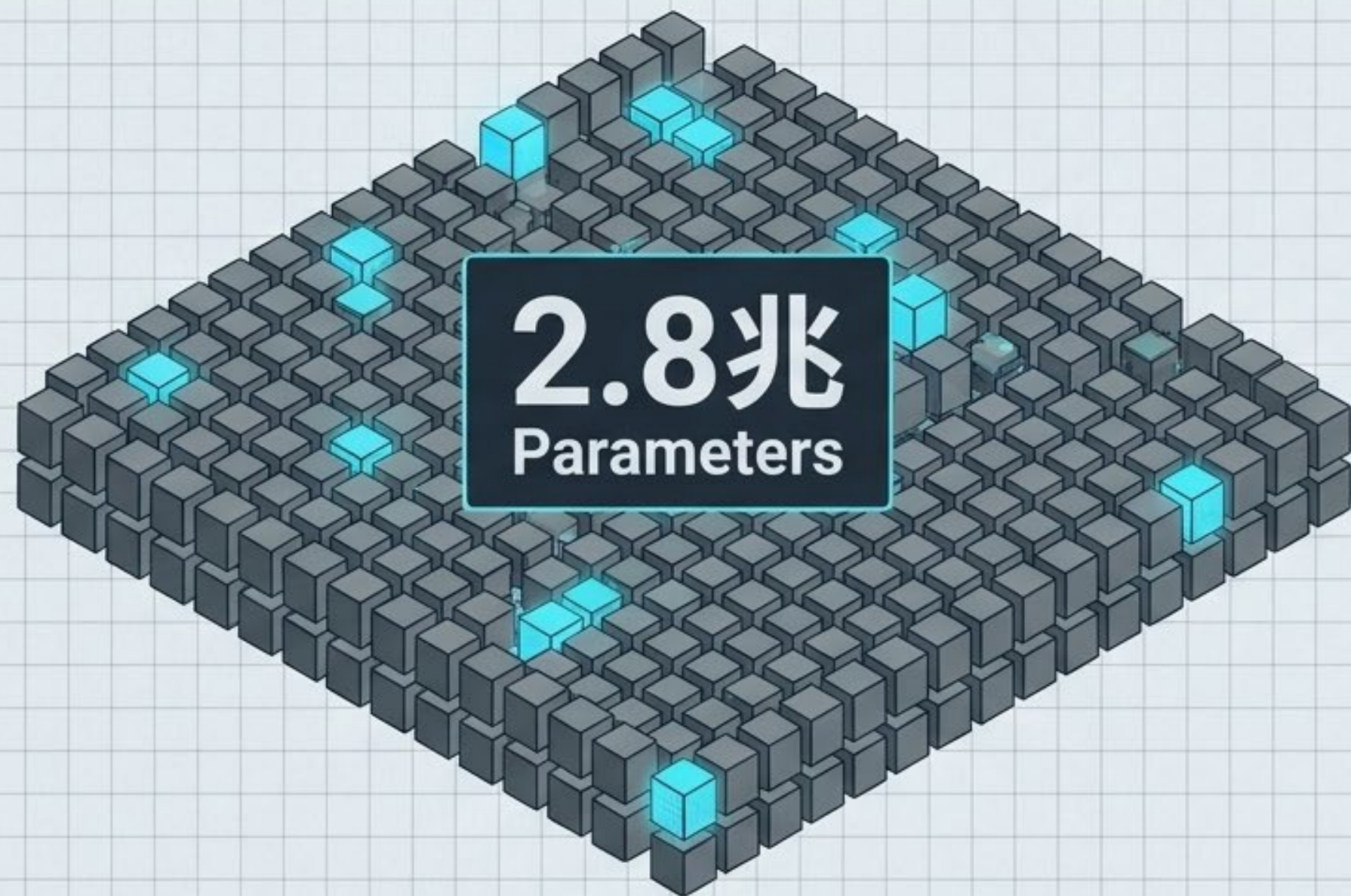
「一つの脳、複数の身体」アーキテクチャ。
最大14kgペイロードの産業用
半ヒューマノイド。



市場を破壊するカタリスト：「Kimi K3」の衝撃

Core Message Card

過去の「中国製AI＝安かろう悪かろう」というナラティブは完全に崩壊した。Moonshot AIが発表したKimi K3は、米国のトップモデルを凌駕する実力を備えた世界最大級のオープンフロンティアモデルである。



1



MoE構造 & コンテキスト長

896の専門家ネットワークのうち推論ごとに「16」のみをアクティベートし計算効率を極大化。最大100万トークン（日本語文庫本7～10冊分）を高速処理。

2

【World No.1】

Frontend Code Arenaにて1,679点を獲得し、Claude Fable 5を抑え世界1位。

3

【GPQA: 93.5】

学術的推論能力において極めて高いスコアを記録。2時間の自律動作で論文検証・Pythonコード生成（3000行）を完遂。

価格破壊のメカニズム：APIコストにおける非対称な競争優位

Core Message Card

Kimi K3は、同国の DeepSeek (\$0.42) の約 20倍の価格を設定しつつも、巧妙なキャッシュ戦略により、米国製トップモデルを事実上無力化するプライシングを実現している。

主要フロンティアAIモデルのAPIコスト比較



戦略的意義

企業が自社データ（RAG）を大量に読み込ませるエンタープライズ用途において、標準価格（入力\$3/出力\$15）から一転して米国モデルに対する圧倒的なコスト優位性を発揮。

中国製巨大モデルの導入における「リターンと致命的リスク」

オープンウェイトによる自社環境（オンプレミス）での強力なAI運用は魅力的だが、中国製モデルには西側基準のガードレールが存在しない「手錠のないAI」特有の深刻なリスクが潜んでいる。

戦略的リターン（Rewards）

- 1 商用利用可能な改変MITライセンス（オープンウェイト）。
- 2 クラウドAPIを経由せず、機密データを社内環境で処理可能。
- 3 圧倒的な長文コンテキスト処理とコーディング能力。

エンタープライズ・リスク（Risks）

- 1 ハルシネーション（幻覚）の悪化：事実正確性テストで幻覚率が39%から「51%」へ悪化。「知らないことを知ったふりで答える」傾向。
- 2 IP蒸留攻撃の疑い：Claudeモデルからの不当なデータ抽出（数百万回の出力）による訓練疑惑。
- 3 コンプライアンス転嫁：著作権保護フィルターが意図的に緩く、有害出力の全責任がユーザー企業側に転嫁される。

AI地政学の分断：Pax Silica vs グローバルサウス

Core Message Card

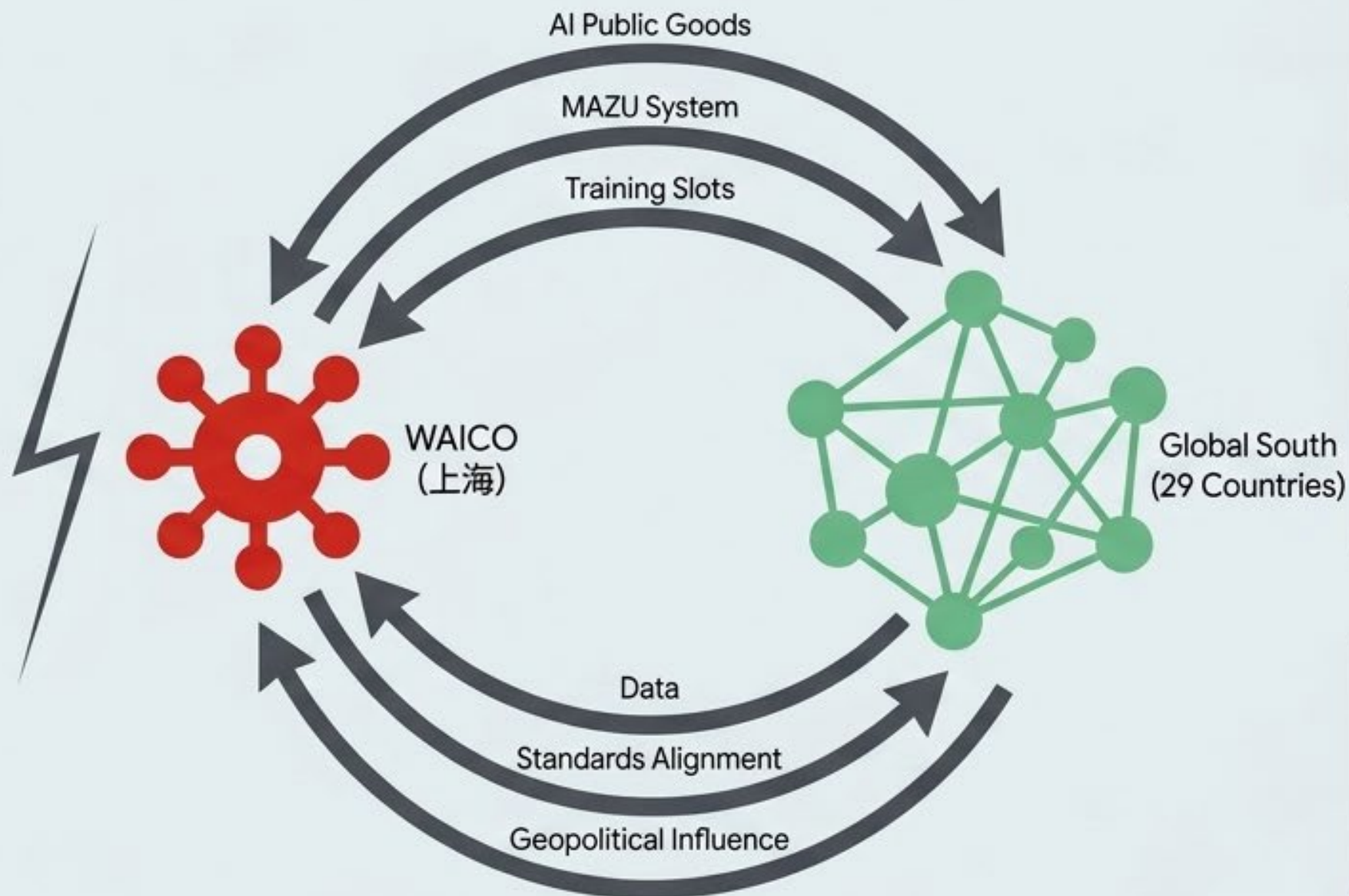
WAIC 2026は、AI技術とガバナンスにおける米中の覇権争いが新次元に突入したことを証明した。世界は単一の技術基準ではなく、地政学的な断層線に沿って分極化している。

Pax Silica（米国・同盟国）	国連AIガバナンス	WAICO（中国主導）
国家安全保障に基づく半導体供給網の囲い込み。国防総省「1260Hリスト」による軍民民融合企業へのハードウェア供給遮断。（※ただしクラウド経由の抜け道が存在）	アントニオ・グテーレス事務総長が提唱。LAWS（自律型致死兵器）の禁止、児童保護、環境負荷の透明性など普遍的倫理の構築。	上海に本部を置く独立国際組織。。グローバルサウス29カ国（ブラジル、インドネシア等）が参加。西側民主主義国は不参加。

WAICOの真の狙い：「AI公共財」による独自エコシステムの構築

Core Message Card

中国は、技術を囲い込む米国とは対照的に、AIインフラを「公共財（Global Public Goods）」として無償提供することで、次世代のグローバルスタンダードと膨大な現場データを還流させる高度なテクノロジー外交を展開している。



The Flywheel Mechanics (習近平国家主席の3つの公約)

1. インフラの提供：気象早期警戒システム「MAZU（媽祖）」を世界30カ国に展開。

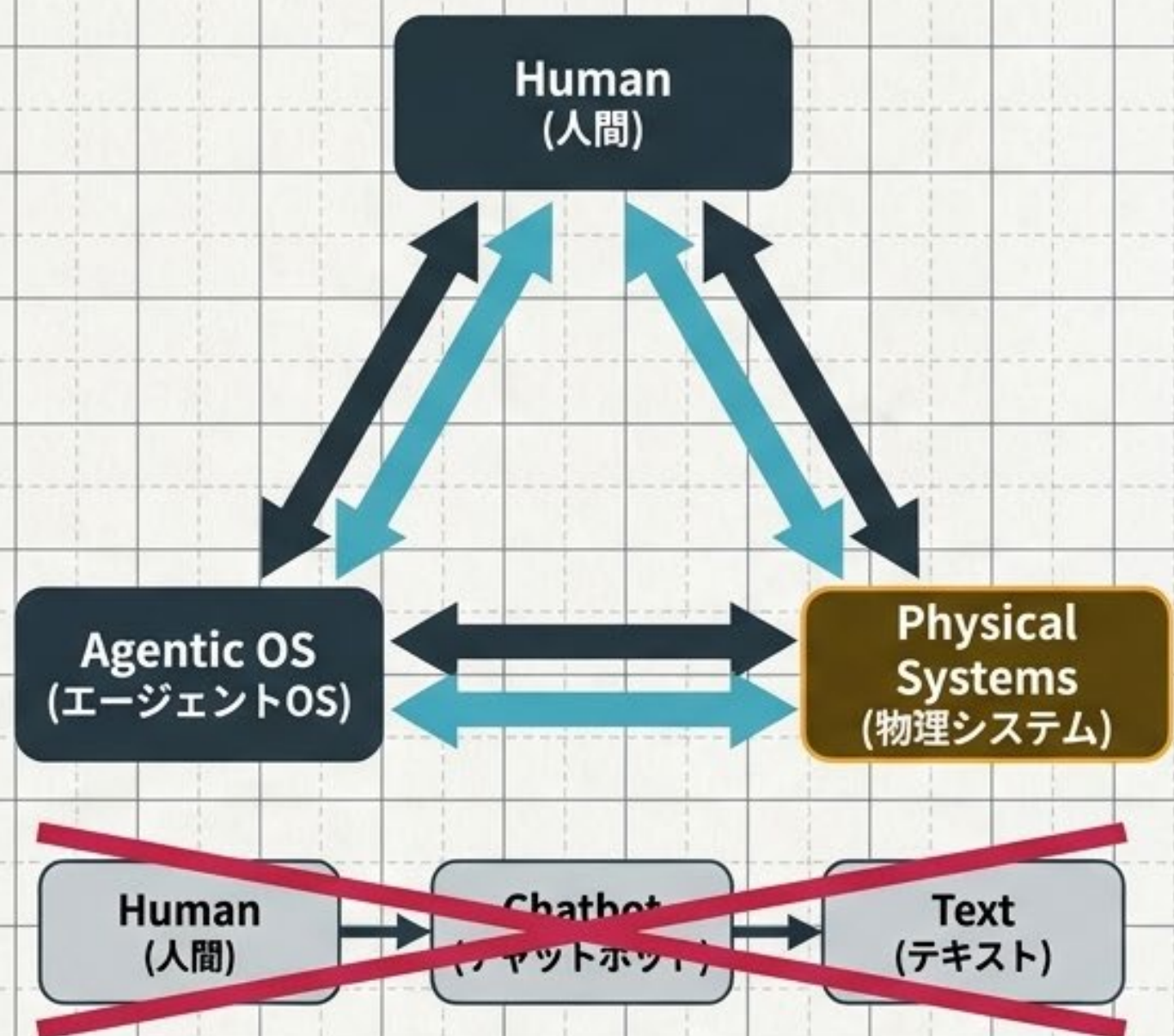
2. 人材育成の提供：途上国向けに5年間で5,000人分のAI専門研修枠を提供。

3. 拠点の構築：ASEAN、アフリカ連合、BRICSを対象とした国際AI応用協力センターの設立。

Strategic Outcome: 半導体規制を迂回し、非同盟国圏におけるルールの主導権と依存度を確立。

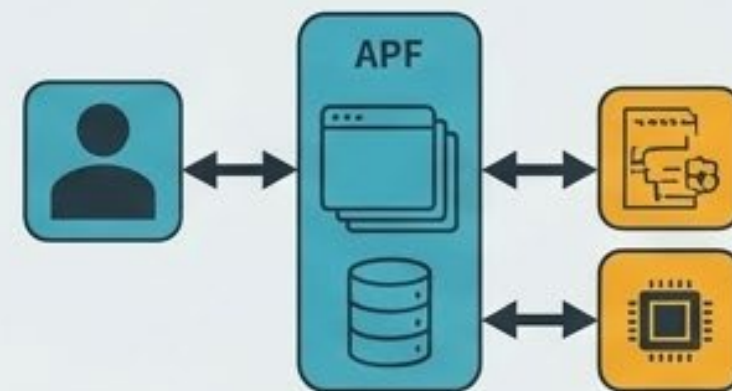
戦略提言1：「使うAI」から「組み込むAI」へのプロセス再設計

「どのチャットボットを導入するか」という議論は直ちに終了させるべきである。次なる優位性は、自社の基幹システムにAIエージェントをいかに深くネイティブ統合し、自律化させるかにある。



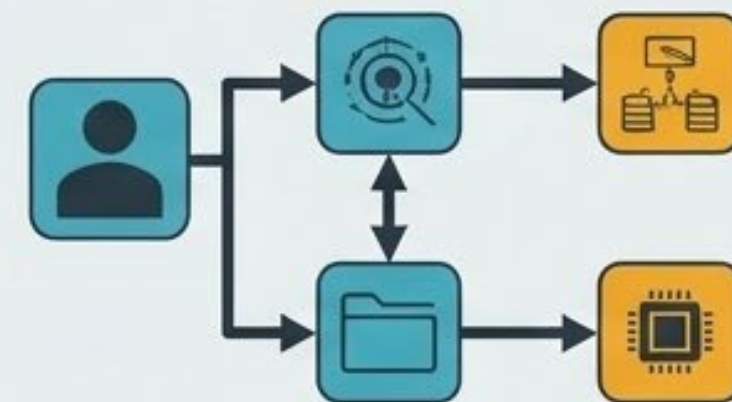
1 プロンプト入力からの脱却

従業員がAIに指示を出すのではなく、Agentic OSが社内のERPやデータベースとAPIで直結し、自律的にタスクを分解・実行するアーキテクチャへの移行。



2 A2Aネットワークの準備

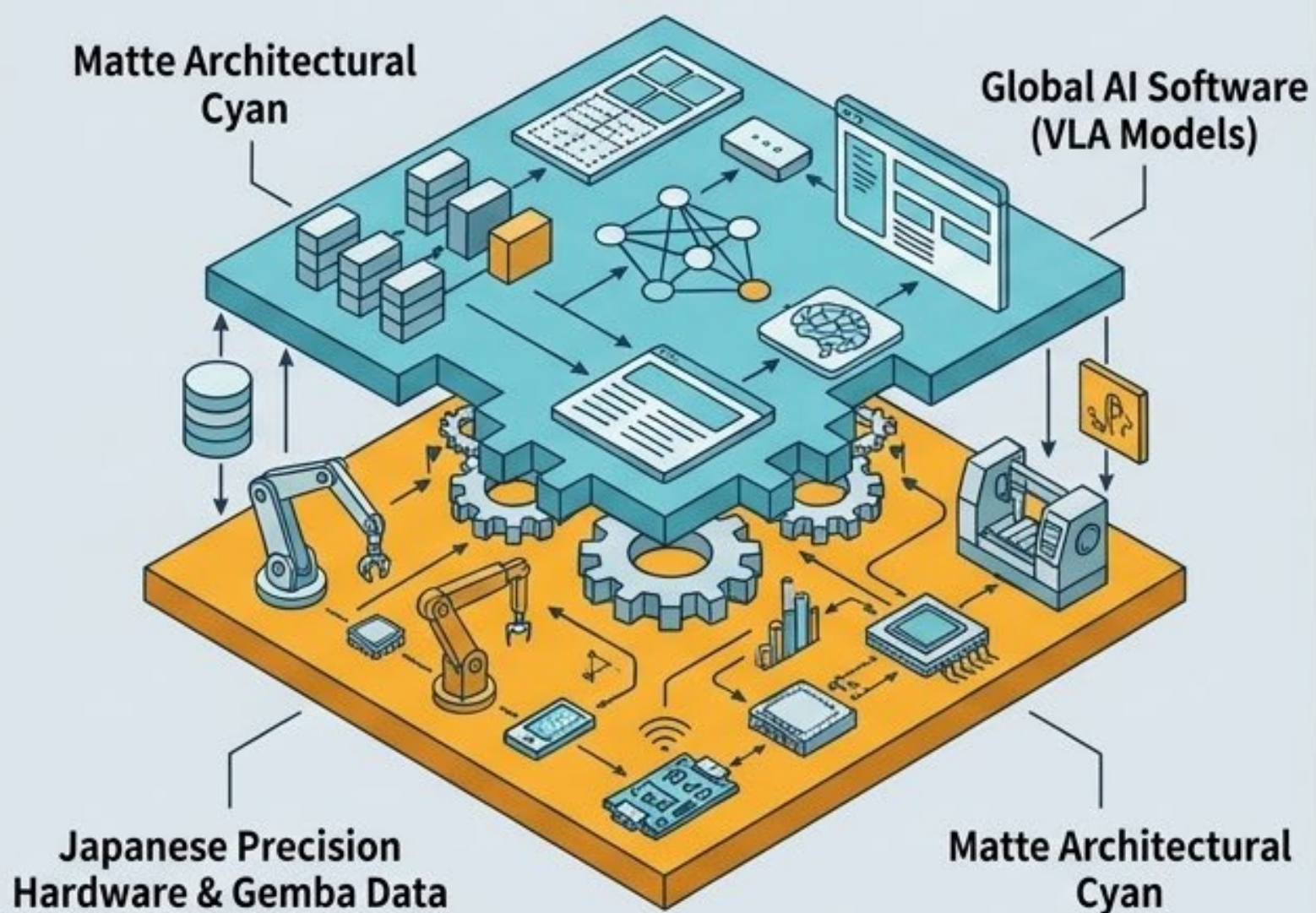
他社のAIエージェントと自社のエージェントが自動取引を行う未来を見据えた、権限委譲とセキュリティ監査の仕組み（監査ログ、人間による承認ゲート）の構築。



戦略提言2：フィジカルAI領域における日系製造業の優位性統合

Core Message Card

具象AIが実社会の労働を担うフェーズにおいて、極めて重要になるのは「ハードウェアの物理的な信頼性と安全性」である。ここに日本の製造現場（Gemba）が長年蓄積した圧倒的な勝機がある。



Actionable Imperative



ソフトウェアのオープン化戦略

ソフトウェア単体での競争を避け、米中の「世界モデル（World Models）」や「VLA大模型」と、自社のハードウェアを接続するオープンプラットフォーム戦略を推進する。

Actionable Imperative



物理的信頼性をエコシステムの核へ

物理的なエラーは器物損壊や人命に関わる。日本特有の「耐久性」「安全性」「低故障率」「エッジ制御技術」を武器に、グローバルAIエコシステムにおける不可欠なコンポーネントとしての地位を確立せよ。

戦略提言3：オープンモデル活用における地政学・IPリスクの厳格管理

Core Message Card

オープンウェイトモデルのオンプレミス運用は強力な武器となるが、経済安全保障上の絶対条件をクリアするインフラ設計と法務体制の内製化が不可欠である。

Human-in-the-Loopの徹底

51%という高い幻覚率に対抗するため、AI エージェントに最終決定権（契約、発注、制御）を与えず、必ず人間の専門家による検証プロセスを組み込む。

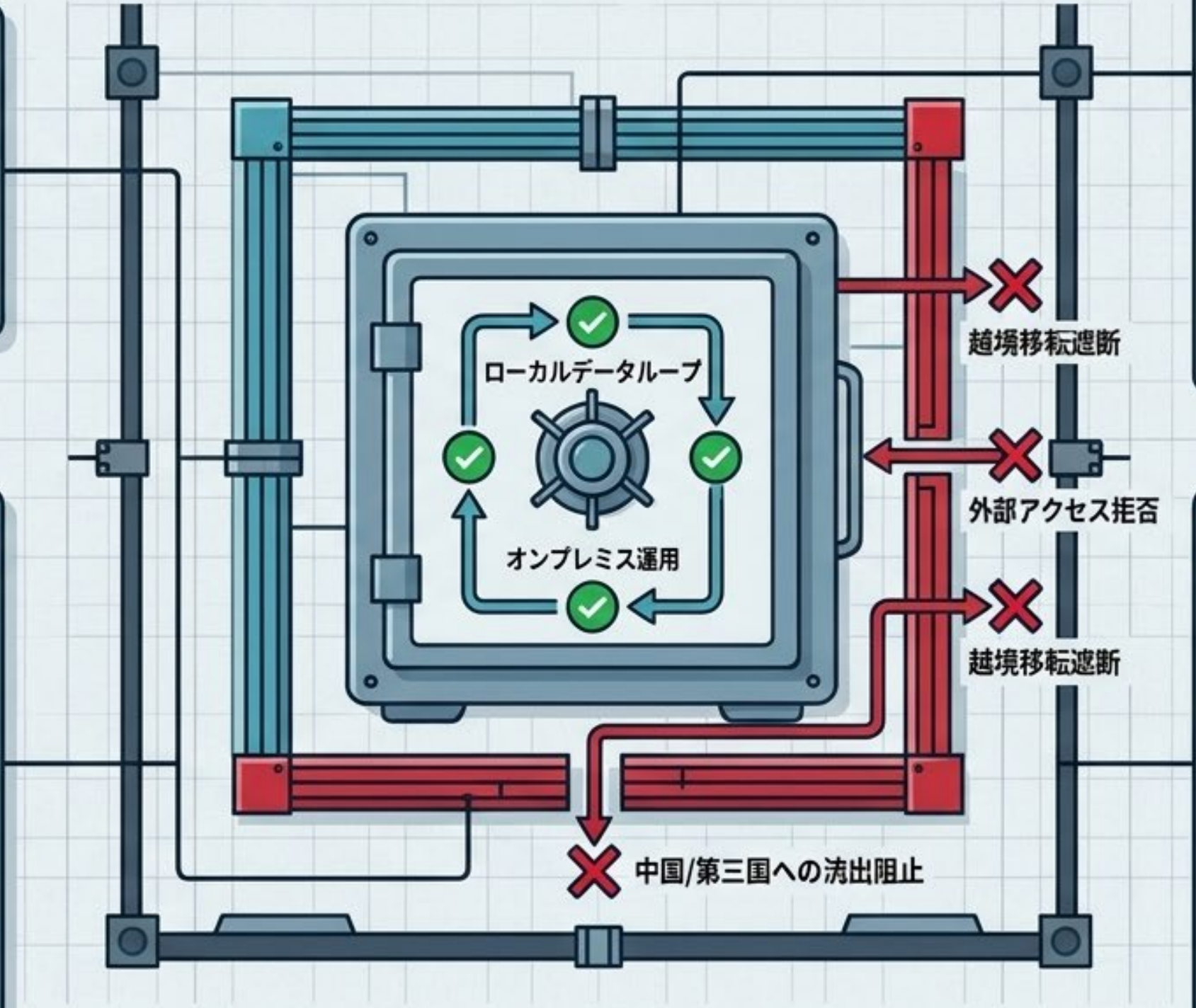
AI

DECISION

検証

STOP

APPROVAL



Risk Management Framework Block

IPクリアランスの完全内製化

ガードレールが緩いモデルを使用する場合、出力されたコードやテキストの著作権侵害リスクをユーザー側で検知・遮断する強力なフィルター体制を構築する。

!

!

✓

✓

データ越境移転の完全遮断

ローカル運用を大前提とし、社内データが中国本土または第三国のサーバーへ流出しない隔離されたネットワーク（リングフェンシング）を設計する。

社内データ

ローカルネットワーク

海外サーバー

第三国

結論とアクション・アーキテクチャ：多極化世界での生存方程式

「テキスト生成の魔法」は終わり、AIは「物理空間での自律生産活動」へ移行した。技術標準が分極化する中、日本企業は国内の効率化ツールという矮小な罫から抜け出し、エコシステムの中核へ躍り出る決断が求められる。

1

【層1：計算インフラ】

Pax Silicaの枠組みを遵守しつつ、コスト効率の高い独自の統合インフラを模索。

2

【層2：Agentic OS】

単なるUIとしての利用を廃止し、自社のビジネスプロセスを「AIエージェントと人間の協調システム」へと根本から再構築。

3

層3：具象AI（日本の絶対勝機）

モノづくりの物理的信頼性と米中ソフトウェアを統合し、実労働空間における安全性と耐久性でデファクトスタンダードを獲得する。

コストとリスクを冷静に分析し、多極化する国際ルールに適応しながら、新技術の波を自社のコア競争力へと昇華せよ。